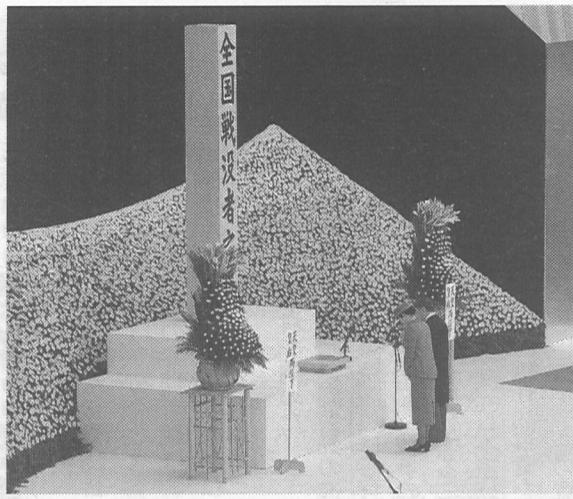


令和7年度政府予算 特弾継続、洋上慰靈実現、平和の語り部倍増 本会の最重要点要望事項計上



戦没者の冥福を祈り黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下 = 8月15日、日本武道館で

新型コロナ感染防止による制限が緩められ、コロナ禍以降、最も多くの遺族が参列、5年ぶりに全都道府県から約3600人が参列した。その他、岸田総理は式辞の中で本日、「戦没者を追悼して、かけがえのない命を失つた数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

本日、「戦没者を追悼して、心を合わせ、将来にわたり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるあたり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

早いもので、先の大戦が終わりを告げてから七十九年の歳月がながれました。私達遺族も高齢となり、あの悲惨な戦争の悲劇の記憶も、薄れゆく今日の戦没者の遺族を代表して、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

早いもので、先の大戦が終わりを告げてから七十九年の歳月がながれました。私達遺族は、戦争の悲惨さと平和の大切さを、今こそ、語り継いでいかなければなりません。記憶の薄れゆく今日にあって、國のため戦場に赴き、無念にも散華された戦没者の皆様を忘れることがありません。父は、昭和十八年に私が五才、弟が一才、そして、母が二十五歳の時に出征し、その年の十一月に中国で戦病死しました。その後の母の苦労は並大抵のものではなく、ただ、がむしゃらに農作業に働くいっぽう、遺族会活動を通じ、同じ境遇の人々と励ましあいながら、家族を守り抜きましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

今日の平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い犠牲の上に築かれたものであり、國の礎となられたその尊い行いを多

令和六年八月十五日
全國戦没者遺族代表 安齋 満

全国戦没者追悼式は、内閣総理大臣三権の長、國務大臣、各政党、地方自治体、経済界等、各界の代表はじめ、本会水落敏栄会長など総勢約4000人が参列した。

内閣総理大臣三権の長、遺骨収集事業を國の責務として集中的に実施する決意を述べ、戦争の惨憺たる事態を防ぐことを誓った。

天皇陛下おことば
本日、「戦没者を追悼して、心を合わせ、将来にわたり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失つた数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思い致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立つて、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が國の一層の発展を祈ります。

（M）

全国戦没者追悼式

5年振りに全都道府県遺族参列 平和の語り部は遺族の使命

終戦から79回目となつた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ挙行された。全国47都道府県遺族代表約3600人が参列し、コロナ禍以降最も多い数となつた。遺族代表として追悼の辞を捧げた安齋満本会常務理事（福島県遺族会長）は、「平和の語り部は遺族の使命」と力強く決意を語った。

5年振りに全都道府県遺族参列

平和の語り部は遺族の使命



令和6年9月15日
第885号

一般財団法人日本遺族会
〒102-8246 東京都千代田区九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
振替発行人 盛川英治
編集毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は國の礎となられた英靈顯彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

その後、両陛下が「全国戦没者の靈」と書かれた標柱の前に進まれ、正午の時報に合わせて戦没者とともに戦没者へ默禱を捧げられた。

続いて、天皇陛下はおことばの中で、数多の戦没者とその遺族に思いを寄せると共に、戦後の国民のたゆみない努力により我が國の平和と繁栄が

築き上げられたと語られ

た。そして、戦没者に対する全国民と共に心からの追悼を表すと述べられた。

高齢となつた遺族でも、戦没者を忘ることは片

時もないと父や母の労苦

を切々と話す様子は会場

の涙を誘つた。その上で、

戦没者を語った。

最高齢は97歳の弟、最

年少は3歳の玄孫、妻の

恵子氏。

謹哀悼

杉本正博氏 日本遺族会元評議員 和歌山県遺族連合会前会長

令和6年8月19日、逝

去された。80歳。通夜、

葬儀はみなべ町の壇跡館

で行われた。喪主は妻美

恵子氏。

好評

靖國暦

好評
頒布中
今や七年

● 体裁：B6判	● 頁数：四八八頁
● 編集発行：靖國神社社務所	
○ 靖國神社の由緒	○ 人生儀礼の説明
○ 家庭のみたままり	○ 手水玉串拝礼の作法
○ 年中行事と節氣	○ 全国の護國神社一覧
○ 年齢早見表	

主な内容
● 頒布価格
一部 300円(送料一二〇円)
※三〇〇部以上取りまとめの場合は割引となります。
● お申込み方法
「はがき」または「FAX」にて部数・郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、お申込み下さい。
※暦と同封の払込取扱票にてご送金下さい。

参列は2人と参列者の高齢化は否めない。他方、戦後生まれの参加は全体の5割弱と過去最多となつた。今後も追悼式の意味を伝承すべく、遺族には戦後世代と共に家族での参列を働きかけたい。

品返還式を執り行う鳥取県日南町は、町長と町遺族会長が遺留品返還事業の趣旨に副い、町を挙げての日章旗返還式に取り組んだ。この事例は今後紹介する▼日章旗が返還されるにあたり、この日

の丸に寄せ書きをされた町民の思いを汲み取り、紹介するにあたり、この日

声

一枚の日章旗がアメリカから日本のご遺族に返還された。

靖國神社では毎年「靖國暦」を颁布して

います。

本暦は、昭和二十三年から明治・大正・昭和の御祭神ゆかりの主な出来事」を毎月掲載しています。

座右に置かれて、日々ご活用戴きたく存じます。

（全文別掲）

みんなで参拝 靖国

七十九回目の終戦の日

参拝者減少傾向に危機感

79回目の終戦の日を迎えた8月15日、超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」121人が揃って昇殿参拝した。同日、岸田内閣の3閣僚が参拝したが、依然として同議連の参拝者数は著しい減少傾向にあり、戦没者遺族の精神的支柱である靖国神社の存在が形骸化されかねない由々しき事態となっている。

8月15日、「みんなで

靖国神社に参拝する国会議員の会」は、自由民主

党・参国議員121人

(議員本人78人、代理43

人)が揃って参拝し、日

本遺族会を代表して水落

敏栄会長が一緒に参拝し

た。参拝した国会議員の

うち3人が副大臣、7人

が政務官だった。

また同日、新藤義孝経

済再生担当大臣、木原稔

防衛大臣、高市早苗経済

安全保障担当大臣の三閣

僚が参拝した。一方、岸

田文雄総理は参拝せず、

代理人を通じて私費で玉

くようであれば、靖国神

社の存在が形骸化され、

新たな国立の戦没者追悼

業の重要性を強調した。

このまま、同議連の参

拝者が減少する状況が続

くようであれば、靖国神

社の存在が形骸化され、

新たな国立の戦没者追悼

昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」と水落敏栄会長(右端)=8月15日、靖国神社



昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」と水落敏栄会長(右端)=8月15日、靖国神社

アツツ島を16年振りに調査

戦没者遺骨収集事業

日本戦没者遺骨収集推進協会は、8月15日から31日の期間でアツツ島等現地調査派遣を実施し、本会からアツツ島の戦没者が、翌18年5月に1万人の米軍が上陸し、激しい戦闘の末、日本兵約2600人が戦死している「玉碎の島」である。

厚生労働省がアツツ島で遺骨収集を実施したのは昭和28年7月の1回のみで、約320柱を收容している。その後、平成19、20年に現地調査を行ったが遺骨は收容されなかつた。

未だに2000柱以上の遺骨が残されたままのアツツ島は、現在は米国領の無人島で、自然保護区に指定されており、気候条件も厳しい。

今回の現地調査は、米国魚類野生生物局(USFWS)に協力を得て、米

アリューシャン列島

アツツ島は、昭和17年6月に日本軍が占領した

00人が戦死している

が、翌18年5月に1万人の米軍が上陸し、激しい戦闘の末、日本兵約2600人が戦死している

「玉碎の島」である。

厚生労働省がアツツ島で遺骨収集を実施したのは昭和28年7月の1回のみで、約320柱を收容している。その後、平成19、20年に現地調査を行ったが遺骨は收容されなかつた。

未だに2000柱以上の遺骨が残されたままのアツツ島は、現在は米国領の無人島で、自然保護区に指定されており、気候条件も厳しい。

今回の現地調査は、米

アリューシャン列島

アツツ島は、昭和17年6月に日本軍が占領した

00人が戦死している

が、翌18年5月に1万人の米軍が上陸し、激しい戦闘の末、日本兵約2600人が戦死している

「玉碎の島」である。

厚生労働省がアツツ島で遺骨収集を実施したのは昭和28年7月の1回のみで、約320柱を收容している。その後、平成19、20年に現地調査を行ったが遺骨は收容されなかつた。

地権者の許可を得て試掘し、推定2柱を收容=8月22日、アツツ島熱田川左岸墓地で

今後の平和の語り部事業

常務理事会で審議

9月6日常務理事会が開催され、戦後80年にむけた平和の語り部事業の計画が審議された。(詳細は本紙10月号に掲載)

広報室からは、戦後80年機会を捉え同事業の

更なる普及、拡大を図ることとも、恒久平和を希求する遺族会の活動を広報し、意義を高めるため、青

年部組織の強化策も併せて提案され、同内容は9

月からの各ブロック会議で共有し、意見を集約す

る予定である。

なお、本年結成70周年を迎える女性部は、より多くの語り部を育成するため12月に研修会を実施し、節目のスタートに花を添える。(4面記事掲載)

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、

賛助金を寄せていただき

た左記の方々に対し、心

よりお礼申しあげます。

賛同者名(敬称略・力

タカナ名は銀行振込、漢

字名は現金書留等)

毛利曙美、木下路也、コ

ミヤンマー小学校修繕

賛同者名(敬称略・力

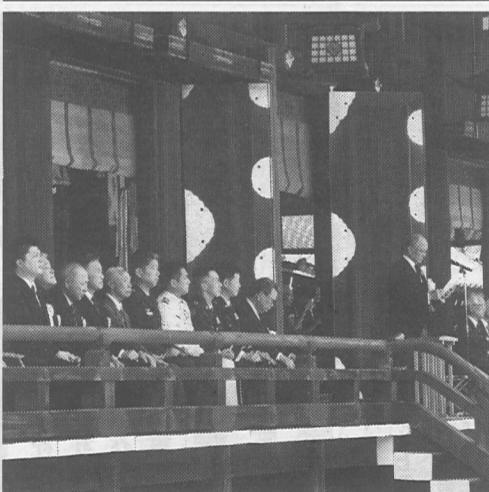
タカナ名は銀行振込、漢

字名は現金書留等)

シガマサキ(以上、8



参拝後の記者会見で質問に答える逢沢一郎副会長(左)と佐藤正久事務局長=8月15日、靖国会館で



祭文を奏上する古庄幸一英靈にこたえる会会長=8月15日、靖国神社で

聖子、堀井巖、松川るい、山本伸吾、山谷えり子、赤池誠章、有村治子、石井正弘、磯崎仁彦、白井介、北村経夫、佐藤啓、佐藤信秋、佐藤正久、山東昭子、豊田俊郎、橋本鈴木宗男、浜田聰

▼参議院

自民民主党青山繁晴、昭政石原正敬、井上信治、衛藤征士郎、大串正樹、大塚拓、大西英男、小倉将信、尾崎正直、梶山弘志、加藤勝信、川崎ひでと、岸信千世、木原英幸、櫻田義孝、新谷正義、木啓、高鳥修一、武村展英、田中良生、田村憲久、渡海紀三朗、中川郁子、長坂康正、中谷元、中野英幸、根本幸典、長谷川淳二、平井卓也、平沼正二郎、古川直季、細田健一、三ツ林裕巳、武藤容治、保岡宏武、山口俊一、山田美樹、山本有一、日本維新の会青柳仁士、小野泰輔、高橋英明、堀井健智、三木圭恵、岬麻紀、和田有一朗

▼衆議院

無所属齊藤健一郎、

参政党神谷宗幣

日本維新の会青島健太、東徹、梅村みづほ

▼参政党

赤池誠章、有村治子、石井正弘、磯崎仁彦、白井介、北村経夫、佐藤啓、佐藤信秋、佐藤正久、山東昭子、豊田俊郎、橋本鈴木宗男、浜田聰

▼無所属

齊藤健一郎、

日本維新の会青島健太、東徹、梅村みづほ

▼参議院

聖子、堀井巖、松川るい、山本伸吾、山谷えり子、赤池誠章、有村治子、石井正弘、磯崎仁彦、白井介、北村経夫、佐藤啓、佐藤信秋、佐藤正久、山東昭子、豊田俊郎、橋本鈴木宗男、浜田聰

▼衆議院

無所属齊藤健一郎、

日本維新の会青島健太、東徹、梅村みづほ

▼参政党

赤池誠章、有村治子、石井正弘、磯崎仁彦、白井介、北村経夫、佐藤啓、佐藤信秋、佐藤正久、山東昭子、豊田俊郎、橋本鈴木宗男、浜田聰

▼無所属

齊藤健一郎、

日本維新の会青島健太、東徹、梅村みづほ

▼参政党

女性部結成70周年を迎える

平和の語り部研修会を企画

昭和23年の結成から70周年を迎える本会女性部は、12月に平和の語り部研修会を実施する。研修の主題はより多くの活動者を育成することとし、香川県観音寺市遺族連合会の取組に倣つた自身の記憶と向き合う座談会を計画。この他、遺児、青年部それぞれの語り部が披露される。戦後80年直前の取組として報道各社に情報提供する予定。

日本遺族会婦人部の活動の歴史は、まさに本会の歴史である。20代から30代前半の若さで愛する夫を失い、老親と幼子を育てるため、昼夜問はず働き続ける中で、同じ境遇の戦没者の妻が手を取り、戦没者の名譽回復と恒久平和な社会の構築を目指した奮闘が、現在の遺族会活動の骨格を作ったことは言うまでもない。そして平成18年、戦没

者の妻で結成した婦人部は、次世代育成を目的に、女性遺児やその配偶者等で作る組織とし、名称も女性部と改め、現在は女性遺児を中心、戦没者の孫、ひ孫等の女性が加

入し、組織継承の中心的役割を担っている。そこで、婦人部、女性部の歩みを学び、恒久平和な社会を希求する活動者となるべく「日本遺族会女性部平和の語り部研修会」を開催する。

本会は、今年度から新規補助事業となつた平和の語り部を今後の遺族会活動の主軸とするため、現在全国47支部の協力を得て実施している。

終戦80年となる来年は、同事業の更なる普及をめざして、遺児の記憶を次世代へ伝える「語り部の会」を結成。女性部員が自身の体験を語り合つことから始めた。大平昌子部長を中心聞き取り、その後アンケートを実施、概要をまとめ、子供たちに

拡大を目指し、通年に亘り切れ目ない企画を本部支部一体で展開する予定。そのため、まずは国民の1割となつた戦争体験者の貴重な記憶を残すため、より多くの体験者の記憶を記録する必要がある。

そこで、体験者である多くの遺族が自身の記憶に向き合い、一端を伝える活動者となる取組として、「自分史」をつくる座談会を実施する。

「自分史」とは香川県観音寺市遺族連合会女性部が平成23年から2年間にかけて取組んだ企画。

戦争の記憶の風化を危惧し、遺児の記憶を次世代へ伝える「語り部の会」を結成。女性部員が自身の体験を語り合つことから始めた。大平昌子部長を中心聞き取り、その後アンケートを実施、概要をまとめ、子供たちに

寄せ書き日の丸遺族のもとへ

福島県、鳥取県で

戦没者等の遺留品返還族に返還された。

福島県

昨年、アメリカの知人

福島県

県と鳥取県で日章旗が遺

福島県

て返還された。

福島県

福島県</